

「なぜ水俣病が解決しないのか ～もやい直しの現状と課題」

講師：中地重晴さん（熊本学園大学教授、熊本学園大学水俣学研究センター長）

日時：2023年12月11日（月） 19：30 ～ 21：00

場所：オンライン開催（Zoom、URLは下記）

日本では水俣病を初め多くの公害がありました。それらの被害が大きくなったのは、加害者による隠蔽です。そして、被害者に因果関係の立証責任が科せられました。また、補償においても、訴訟に持ち込まざるを得なくなり、長い時間がかかりました。被害者の住民に科学的な立証や法的な訴訟を課するという構造が問題です。

講演要旨： 公害の原点といわれる水俣病ですが、1973年第一次訴訟判決から50年を経ても、水俣病被害に対する補償問題は解決していません。1956年の水俣病公式確認から、現在に至るまで、水俣病の歴史をふりかえります。今なお、水俣病の認定や補償を求める訴訟が継続している原因である認定制度について、何が問題なのかを解説します。また、もやい直しと呼ばれる水俣市のまちづくりの現状と課題を説明します。一方、世界は水銀による健康被害をどう食い止めようとしているのか、水銀に関する水俣条約の内容と日本の課題について、新たに提案されている水銀含有蛍光灯の製造禁止について、目指すべき社会の方向性について、ともに考えていきたいと思えます。



中地重晴さんの略歴： 1981年京都大学工学部資源工学科卒業。市民のための環境調査機関「環境監視研究所」を設立し、全国各地の住民運動に協力する。2010年4月より熊本学園大学社会福祉学部教授。2023年4月より同水俣学研究センター長を務める。

ZOOMのURL

<https://us02web.zoom.us/j/86837837807?pwd=dmJNYjZOSHh1LzNBOW1sMHB0b1RDZz09>

パスコード：038782、 ミーティング ID：868 3783 7807

参加登録： 会員は不要。非会員の方は松久 (h.matsuhisa@shukusho.org) まで連絡願います。

参加費： 会員は無料、非会員の方には参加登録時に500円程度のカンパをお願いする予定です。